

**製品名: 嗅覚受容体 10J1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab15143**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	30kDa

**抗原情報**

遺伝子名	OR10J1
別名	
遺伝子 ID	26476.0
SwissProt ID	P30954/Q2M1M8/Q5VSV1
免疫原	抗血清はヒト OR10J1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 241-290

**背景**

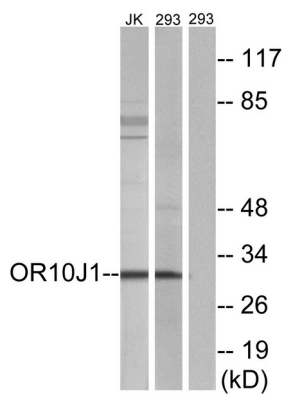
嗅覚受容体は鼻腔内の嗅覚分子と相互作用し、嗅覚の知覚を引き起こす神経反応を惹起します。嗅覚受容体タンパク質は、単一のコーディングエクソン遺伝子から生じる G タンパク質共役受容体 (GPCR) の大規模なファミリーに属します。嗅覚受容体は、多くの

神経伝達物質受容体やホルモン受容体と7つの膜貫通ドメイン構造を共有し、嗅覚シグナルの認識とGタンパク質を介した伝達を担っています。嗅覚受容体遺伝子ファミリーはゲノム中で最大のファミリーです。この生物の嗅覚受容体遺伝子およびタンパク質に割り当てられた命名法は、他の生物とは独立しています。[RefSeq提供、2008年7月]、機能：嗅覚受容体、類似性：Gタンパク質共役受容体1ファミリーに属する。

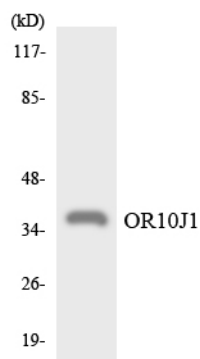
## 研究分野

嗅覚伝達;

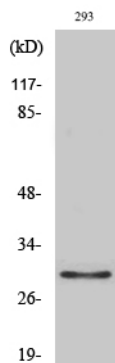
## 画像データ



OR10J1抗体を用いた293細胞およびJurkat細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



OR10J1抗体を使用したRAW264.7細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



嗅覚受容体10J1ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析